

(様式1)

自己評価票

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<p>地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>	<p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、地域や自然を取り込んだ理念をつくりあげている。</p>	
2	<p>理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>	<p>理念をホーム内に掲示し、常に理念に添ったケアが出来るよう意識付するとともに、カンファレンスや会議などでも理念の実践に向けた話し合いを行っている。</p>	
3	<p>家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる</p>	<p>運営推進会議や広報紙などで公表すると共に、ホーム玄関に理念を掲示し、訪れる人の目に触れるようにしている。また、ホームでの活動を通じ理念を理解してもらえよう取り組んでいる。</p>	
2. 地域との支えあい			
4	<p>隣近所、地域とのつきあい及び地域貢献</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけあったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるよう努めている。事業所は地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。また、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。担当職員はキャラバンメイトになるなど、地域の認知症普及活動に参加している。</p>	<p>マンションの住人や近所の人々とは日常的に挨拶を交わし、マンション1階にあるデイサービス利用者との交流もある。町内の行事には入居者と職員が共に参加し、地域の人々と交流している。また、地域の中学生の職業体験学習の受け入れや、認知症介護実践者研修の実習受け入れなどを通じ地域に貢献している。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
5	<p>評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>		
6	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>		
7	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、運営や現場の実情等を積極的に伝える機会を作り、考え方や運営の実態を共有しながら、直面している運営やサービスの課題解決に向けて協議し、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>		
8	<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>		
9	<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
10	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>		
11	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>		
12	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>		
13	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>		
14	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の見解や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>		
15	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<p>16 職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>職員の異動はあるが、引き継ぎの期間を設けることで、入居者へのダメージを最小限にするよう努めている。</p>		
<p>5. 人材の育成と支援</p>			
<p>17 職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>年間計画を立案し、職員が事業所内外で開催される研修に参加出来るようにしている。</p>		
<p>18 同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>全国、および八戸地区のグループホーム協議会の会員となり、研修や交流会などに参加することで、地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りやサービスの質の向上に取り組んでいる。</p>		
<p>19 職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための良好な工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>勤務の調整や休憩室の確保、法人内のクラブ活動、親睦会などでストレスの軽減を図るほか、職員同士のコミュニケーションを良好に保ち、個人が問題を抱え込まないようにしている。また、職員の意見を反映させた業務改善にも取り組んでいる。</p>		
<p>20 向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>資格取得や研修への参加を奨励しており、職場内でその資格を活かせるようにしている。また、「発揮能力評価」を職員自身も行うことで、個々の努力や実績を把握し、評価に繋げている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
21	<p>初期に築く本人、家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人、家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>		
22	<p>初期対応の見極めと支援</p> <p>相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>		
23	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
24	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
25 本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	入居者の状況を報告し、必要に応じて相談するなど、家族等の意向を伺いながら共に本人を支えていくよう努力している。		
26 本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	これまでの本人と家族との関係の理解に努め、状況に応じた対応をすることで、より良い関係が築いていけるよう努力している。		
27 馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人を取り巻く人間関係を把握し、家族等にも協力していただきながら、馴染みの場所へ出かけたり、知人や友人の訪問を歓迎するなど、これまでの関係が途切れないよう支援している。		
28 利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	入居者の個性や入居者同士の関係を把握し、職員がさりげなく調整しながら、入居者同士が関わり、支え合えるような場面作りをしている。		
29 関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	長期入院などの理由でホームを退居した場合や自宅へ戻る場合など、ケアマネージャーや医療関係者等と連携し、今後の相談にのるなど、継続的な支援を行っている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1. 一人ひとりの把握			
30	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>本人やご家族等からの情報や、普段の生活の中での様子、会話等から本人の意向を把握するようにしている。</p>	
31	<p>これまでの暮らしの把握</p> <p>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている</p>	<p>入居時に本人やご家族等に情報提供をお願いすると共に、生活している中で、本人の様子や会話などから把握するよう努めている。</p>	
32	<p>暮らしの現状の把握</p> <p>一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている</p>	<p>毎日の暮らしの様子、本人の出来ること、出来ないことを記録に残し、職員間の情報を共有することで、現状を総合的に把握するようにしている。</p>	
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
33	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>医師や看護師を含むチームで定期的カンファレンスを行い、本人の状態や生活の様子、困っていること等について話し合い、本人や家族等の意向を伺い、本人がより良く暮らすためのケアプランを作成している。</p>	
34	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>長期目標、短期目標を設定し、定期的評価、見直しを行うと共に、状態に変化が見られたときは、その都度本人や家族等、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<p>35</p> <p>個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>健康状態や生活の様子を個別に記録し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。</p>		
<p>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</p>			
<p>36</p> <p>事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	<p>本人やご家族の状況、その時々々の要望に応じて、通院介助や外出の支援、生活の中でのリハビリ、地域交流など柔軟な支援をしている。</p>		
<p>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</p>			
<p>37</p> <p>地域資源との協働</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している</p>	<p>民生委員、町内会長、地域の方々の協力により、地域の行事に参加したり、消防や地域の方々の協力による避難訓練の実施、地域の中学生の職業体験受け入れなど、協力しながら支援している。</p>		
<p>38</p> <p>他のサービスの活用支援</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている</p>	<p>他のサービスを利用する必要がある時は、本人およびご家族等の意向を確認した上で、他のケアマネジャーやサービス事業者と良く話し合い、サービスが利用できるよう支援している。</p>		
<p>39</p> <p>地域包括支援センターとの協働</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している</p>	<p>権利擁護や長期的なケアマネジメントについては、同法人のソーシャルワーカーや総合在宅ケアセンターの関係者と話し合い、支援している。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
40 かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医との繋がりを保ちながら、ご家族等と相談の上、必要時は通院介助も行っている。診察の結果はその都度ご家族へ報告し、情報を共有している。		
41 認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	同法人のホーム担当医が身体面、精神面の相談に応じている他、専門医受診の支援をしている。		
42 看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	ホーム職員の看護師が、日常の健康管理や体調変化時の対応をしている。また、協力病院と連携し医療面での支援をしている。		
43 早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院治療に必要な情報を医療機関に提供すると共に、医師や看護師から回復状況、退院のめど等の情報を得て、連携しながら、速やかな退院へ繋げている。		
44 重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時に、重度化した場合の対応にかかる指針について、説明し同意を得ており、体調に変化が見られた場合は、本人及びご家族等の意向を随時確認しながら、治療や介護の方針を決定し、医師を含めたチーム全員が情報を共有している。		
45 重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	今後予想される入居者の体調変化や対応方法などについて、チームで検討し、看護師の配置や職員教育など体制を整えると共に、医師や看護師、ご家族等と情報を共有し、本人の希望に添うよう共に取り組んでいる。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
46 住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	移り住む際には、身体面、精神面の状況や生活習慣、好みなど、関係者間で情報交換を行い、ケアの継続性が保たれるよう配慮し、ダメージが最小限となるよう努めている。		
・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1) 一人ひとりの尊重			
47 プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	一人一人の意思を尊重し、プライドを傷つけないよう配慮した言葉かけや対応をしている。また記録類は決められた場所に保管し、管理している。		
48 利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	日常生活のあらゆる場面で、一人一人が思いを表せるよう、わかりやすく説明し、問い掛けながら自己決定を促し、本人が納得しながら暮らすことが出来るよう支援している。		
49 日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事や入浴など1日の流れはあるが、一人一人の希望、体調や気分などに応じて、臨機応変に対応し、出来るだけ希望に添った支援が出来るよう心がけている。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
50 身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	希望に応じて美容院での散髪や毛染めなど、その人らしいおしゃれが出来るよう支援している。また、日常的に基礎化粧品、メイクが出来るよう支援し、楽しく意欲的に生活できるような取り組みをしている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
51 食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、可能な場合は利用者 と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者と職員と一緒に食事をしながら、必要に応じて介助し、食後の片づけも出来る範囲で一緒に行っている。		
52 本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好み のものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しむ よう支援している	嗜好品については、本人の体調に留意し、主治医と相談しながら、適量を楽しむよう支援している。		
53 気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力 や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄でき るよう支援している	尿意のある方には、自室内にポータブルトイレを設置したり、尿取りパッド等を部分的に使用し、尿意のない方にはりハビリパンツやおむつ等を個々の状態に応じて使用している。離床時や食事の前後は声をかけ排泄の確認をし、汚染があった場合は速やかに交換することで、気持ちの良い状態を保つようにしている。		
54 入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人 ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しむ ように支援している	週2回の入浴を目安にしているが、その日の気分や体調に応じて、臨機応変に対応している。入浴時のリスクを考慮し、マンパワーを確保できる日中に、満足のいく入浴が出来るよう支援している。		
55 安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々 の状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れる よう支援している	一人一人の生活パターンやその日の活動量、体調、本人の希望に応じ、午睡や休息を促し、夜間不眠時には温かい飲み物をすすめたり、話を聞くなど、安心して眠れるよう支援している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
56 役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人 ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴 らしの支援をしている	食後の片づけ、買い物、ドライブ、地域交流など、個々に合わせた役割や楽しみを把握し、張り合いのある生活が出来るよう支援している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
57 お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人がお金を所持することで安心感を得られ、社会性を維持するためにも重要であることを職員は理解しており、入居者の希望や能力に応じて少額のお金を所持してもらっている。事業所でお小遣いを管理している方でも、買い物の際は出来るだけ自分で品物を選び、自分で支払うことが出来るよう支援している。		
58 日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	買い物や散歩、ドライブなど、入居者の気分や体調に留意しながら、心身の活性化に繋がるよう、希望に応じた支援をしている。		
59 普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	昔住んでいた場所、喫茶店、海など、普段の会話の中から入居者の行きたい場所を聞き、希望の場所に出かけられるよう支援している。また、ご家族と一緒に温泉に行くなど、ご家族が積極的に関わっているケースもある。		
60 電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者の希望や持っている力に応じて、個別に電話や手紙の支援をしている。電話の場合はプライバシーに配慮し、子機を使用し、居室でも会話が出来るようにしている。		
61 家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	ご家族や馴染みの人達が気軽に訪問でき、共有スペースや居室などでゆっくり過ごせるよう、お茶の準備をし、訪問を歓迎している。		
(4)安心と安全を支える支援			
62 身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束に関する研修に参加し、全職員が理解し、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
63 鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	マンション5階フロアを利用したホームのため、玄関前に階段やエレベーターがあり、危険であるため、本人及びご家族の同意の下、玄関に鍵をかけているが、入居者の行動を把握し、希望があればいつでも鍵が開けられるようにしている。		
64 利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	職員は入居者のプライバシーに配慮し、一人で過ごす時間や安眠を妨げないようにしながら、昼夜通して入居者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。		
65 注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	内服薬は職員管理とし、医師の指示通りに服薬出来るようにしている。その他の物品については入居者の状態に応じて職員が管理し、見守りの下、安全に使用できるように支援している。		
66 事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	入居者一人一人の、想定されるリスクを把握し、未然に防ぐための工夫をしている。また、ヒヤリハットの記録から、原因をさぐり、予防措置を行っている。		
67 急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	入居者の急変時や事故発生時の対応について、マニュアルを整備している。また、定期的に勉強会を開催することで、職員全員が適切に、落ち着いて対応できるようにしている。		
68 災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	災害時のマニュアル、緊急連絡網を整え、地域住民の協力の下避難訓練を実施している。また、日ごろより地域住民と交流を図り、災害時の協力要請について働きかけている。マンションの共同防火管理体制も整備されており、住民による自衛消防組織を編成し、役割分担を決め、災害時に備えている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
69 リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	転倒や転落、誤嚥性肺炎、歩行障害など、今後起こり得る一人一人のリスクをご家族に説明し、本人及びご家族の希望やホームの方針などを話し合い、出来るだけ抑圧感のない暮らしが出来るよう、相談しながら対応している。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
70 体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎日、血圧と体温を測定し、普段の状態を把握するとともに、状態に変化が見られたときには看護師、医師、ご家族に報告し速やかに対応している。		
71 服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	入居者全員の薬の内容(目的、副作用、用法、用量)をファイルにまとめ、必要時はいつでも見ることが出来るようにしている。また、特に注意が必要な薬については、内容と注意事項をカードに記載し、職員に周知している。毎回、服薬確認(必要な方には介助)を行い医師の指示通りに服薬出来るよう支援するとともに、状態に変化が見られた場合は医師に報告し		
72 便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	乳製品や野菜、寒天などを献立に採り入れている他、水分摂取や運動を促し便秘の予防をしている。また、自力で運動出来ない方には、看護師のアドバイスの下、腹部温電法やマッサージなどを行ない、出来るだけ下剤に頼らない工夫をしている。		
73 口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	職員は口腔ケアの必要性を理解し、入居者の状態に応じて歯磨きの声かけ、見守り、介助を行っている。また、必要に応じて、歯科受診介助も行っている。		
74 栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量や水分摂取量を個別記録に残し、一人一人の摂取状況を把握するとともに、状態に合わせた食事形態、量、回数などを考慮し提供している。また、医師、栄養士を含む栄養サポートチーム内で定期的に入居者の栄養状態について話し合い、改善に向けた取り組みを行っている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
75 感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症に対するマニュアルがあり実行している他、感染症に関する研修にも参加し、理解を深めている。また、入居者、ご家族の同意の下、職員、入居者共にインフルエンザ予防接種を受けている。		
76 食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	調理器具や布巾などはハイター消毒し、冷蔵庫内の清掃も定期的に行っている。また、食材の鮮度を常に確認し、賞味期限内に使い切るようにしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1)居心地のよい環境づくり			
77 安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	駐車場からマンション入り口、エレベーターまでの通路に、植木風の案内板を設置し、ホームの場所がわかるようにしている。		
78 居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	食堂にはブラインド、廊下にはすだれやよしずを取り付け、光の調節をしている他、季節の花などを飾り、心休まる空間作りをしている。		
79 共用空間における居場所づくり 共用空間の中には、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂にはテーブル席の他にソファを置き、玄関ホールや廊下には椅子を置くことで、入居者が一人で休んだり、気の合う入居者同士と一緒に過ごせる場所を作っている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
80	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>		
81	<p>換気・空調の配慮</p> <p>気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている</p>		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
82	<p>身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>		
83	<p>わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している</p>		
84	<p>建物の活用</p> <p>建物を利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている</p>		<p>ベランダを利用して園芸を楽しんだり、ご家族や地域の人々との交流の場として活用している。</p>

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

・サービスの成果に関する項目		
項目		取り組みの成果 (該当する箇所に 印をつけてください)
85	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の 利用者の2/3くらいの 利用者の1/3くらいの ほとんど掴んでいない
86	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある 数日に1回程度ある たまにある ほとんどない
87	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
88	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
89	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
90	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
91	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
92	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と 家族の2/3くらいと 家族の1/3くらいと ほとんどできていない
93	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように 数日に1回程度 たまに ほとんどない

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を 印で囲むこと)
94	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている 少しずつ増えている あまり増えていない 全くいない
95	職員は、生き活きと働けている	ほぼ全ての職員が 職員の2/3くらいが 職員の1/3くらいが ほとんどいない
96	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
97	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が 家族等の2/3くらいが 家族等の1/3くらいが ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】
(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

【医療機関との連携】
日ごろより医療面に関する相談や、入居者の体調変化時に速やかに適切な対応が出来るよう、医療機関との連絡体制及び連携が取れている。また、健康維持に不可欠な栄養面に関しても、NST(栄養サポートチーム)と協働し取り組んでいる。

【地域との協力体制】
町内会の協力を得て、季節毎の行事に入居者、職員と一緒に参加し、地域住民と交流する機会を設けている。また、災害時には地域住民の協力が得られるよう、連絡体制を整え、避難訓練にも参加していただいている。

【心身の活性化を図るための取り組み】
入居者に馴染みのある「八戸小唄」などを用いたリズム体操や、フェイスマッサージや基礎化粧品、メイク、ネイルアートなどを取り入れたおしゃれの支援により、心身の活性化を図っている。